

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教務部	1 効果的行事の実施と授業時数の確保 (教育計画)	(1) 各部署と連携し、効果的に行事を運営できるようサポートする。 (2) 考査と考査の間の授業時数を意識し、適切な日時を提案する。 (3) 令和8年度新教育課程に向けた準備をする。	A	(1) よくできた。継続運営していく。 (2) 一部授業時数に差が出た。学期内に修正を図りながら対応する。 (3) 教育課程は継続審議を要する。生徒増、進路の多様化と教員負担のバランスを図りながら、合理化する。
	2 計画的な生徒アンケートの実施 (実態調査)	(1) 生活調査と学習調査を複数回行う。教務部全体で集計する。 (2) 生活調査と学習調査の結果を該当学年に共有し、指導に活かす。 (3) 通学方法調査を行い正確な実態を把握し、学校基本調査・学校要覧に反映する。	B	(1) 計画通りに7月、9月、12月に実施した。 (2) 授業アンケートの集計方法について改善を要する。 (3) よくできた。継続運営していく。
	3 ルーティン業務の輪番化 (記録・時間割・別室・欠課)	(1) 教務日誌、時間割振替業務、別室利用記録、非常勤講師の生徒欠課時数の記録を輪番化する。 (2) 日々の生徒の状況ならびに学校運営状況の把握に努める。	A	(1) 欠課時数の記録の管理方法について、DX化を図る等、再検討を要する。教務部の負担軽減をさらに推進する。 (2) 教務部週報を廃止し、月別予定表で把握するよう合理化、継続する。
	4 バス・奨学金業務の確実な遂行 (バス・奨学金)	(1) 生徒サービスの一環と位置付け、分かりやすい説明を行う。路線バスの変更に際し正確な情報を早く伝える。 (2) 両業務とも部員間での連携を密にし、漏れを防ぐ。	A	(1) 行事に伴う時刻変更を正確に行う。バスの乗車マナーの向上に向けて指導を強化する。 (2) 複雑、多様化する奨学金制度について、専門機関との連携を図る。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教務部	5 テスト業務の円滑な実施 (時間割)	(1) テスト時間割と監督割、返却特編時間割を作成し、告知する。 (2) テスト欠席者の追試を計画、実施をする。テスト未受験者を管理する。	A	(1) 教務部内において輪番で担当する。 (2) 厳格化を推進し、後日受験者の減少を目指す。 (3) 成績処理のミス未然に防ぐ、確認作業の徹底化を図る。
	6 教科書・教材・備品の管理 (教科書・備品)	(1) 次年度使用教科書の取りまとめを行う。また、副教材の再注文業務をシステム化し、支払いまでの流れを確立する。 (2) 消耗備品を把握し、管理する。	A	(1) 業務負担が大きく、担当部署の設置、運営が望ましい。 (2) よくできた。継続運営していく。
	7 正確な数値と生徒異動の管理 (文書統計)	(1) 月別異動報告の把握と報告を正確に行う。複数の教員で行う。 (2) 定期考査後、成績個表を発行し、生徒が自ら振り返る機会とし、指導に活用する。 (3) 文書及びデジタル文書を整理し、活用できる環境を整える。不要な文書を決まりに沿って処分、整理する。	B	(1) 複数の教員による確認作業の徹底を継続し、ミスを防ぐ。 (2) 担当者は、評定、観点、出欠の入力内容を可視化して確認を行う。 (3) 教務システムをさらに強化して業務負担軽減に努める。
	8 教務部員のスキルアップ (人材育成)	(1) 2週間報・教務部会を通し、教務部業務の進捗状況を確認する。 (2) 仕事が自己成長の機会であると捉える意識をもっていただく。	B	(1) 週報を廃止し、輪番表で可視化することで業務分担を確認する。 (2) 仕事内容をマニュアル化し、業務分担を可能にし、個々人の負担の均一化を図る。

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路指導部	1 生徒の興味関心・個性に応じた進路提案が出来るよう、教員説明会等に参加し得た知識を共有できる部	生徒たちの将来に対して、的確な提案が出来るよう、進路指導部所属の教員は研修や教員説明会に参加し知識を蓄える。	A	A	部に所属する教員は、漏らさず全員が様々な大学の教員対象説明会に参加し情報収集した。この取り組みは次年度も継続したい。
	2 生徒たちが、体験を通して様々な学問や職業に触れ、進路選択の視野を広げられる企画ができる部	外部業者に頼らず、状況に応じた進路行事の企画を独自で企画する。	A		放課後の時間を活用したミニ大学説明会を今年から取り組んだ。保護者も含め参加者も多く、ニーズをとらえていなかったと反省している。次年度も継続したい。
	3 外部の学校や企業に対して丁寧な対応を心掛け、本校に対するイメージ向上と、信頼関係を築こうと行動できる部	生徒の進路と直結するため、学校・企業とも丁寧に対応。	A		<p>多くの入試担当者が来訪し、概ねすべての来訪者に対応できている。「東風の先生は話をしっかり聞いてくれる」と言われたこともあり、次年度も継続したい。</p> <p>教員の負担軽減を目的として、AIを利用して求人票や指定校依頼文のデジタル化を開始したが、正確な文字認識をしているわけではなかったため、過信できないという前提で次年度も対応する。</p>

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
生徒支援部	1 交通ルールの遵守とマナーの向上	(1)外部専門家による交通安全講話の実施。 (2)自転車通学者への個別対応。 (3)他校と合同の巡回指導の実施。 (4)下校時の6号線付近での巡回。	B	<p>今年度の交通事故件数は9件であった。昨年度よりも増加してしまった。その中で通報しなかった件数が4件あり、来年度も交通安全の指導を強化していくことが必至である。問題行動などでの特別指導は3件であり、昨年度よりも大幅に減少した。また、外部の方からの苦情も2件と、昨年度よりも減少した。公共マナーなどの指導や声掛けの成果と捉えたい。</p> <p>学校行事におおくの生徒が積極的に参加する姿は、とても頼もしい姿であった。次年度も、多くの行事を通して生徒の積極性を成長させたい。</p>
	2 規範意識と自己管理能力の向上	(1)面談における注意喚起。 (2)文書などを通じた保護者への協力依頼。 (3)生徒への積極的な声掛け。 (4)掲示物や配信による注意喚起。	B	
	3 問題となる行動の未然防止	(1)一日一回は校内巡回。 (2)各学年と連携した情報の収集と共有。 (3)教育相談との情報共有。	B	
	4 主体性の育成	(1)委員会活動の活性化。 (2)学校行事における生徒の役割の増加。 (3)支援部目標に沿った生徒の役割の創出。	A	

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 保護者の会 会則改編に伴い新しい取り組みに挑戦する。各部署、管理職と連携し、円滑な運営を図る。	(1)各部署と連携し、効果的に行事を運営できるようサポートする。 (2)保護者が参加できる適切な日時・企画を提案する。 (3)ゆとりのもてる行事予定を作成する。保護者の会総会を開催する。	A		<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、ICT活用の推進（オンラインアンケート、SNSでの広報活動など）積極的に取り組む。 ・ 役員業務の可視化・標準化（マニュアル整備、引き継ぎの効率化）をすることで保護者の参加率を向上させる。 ・ 保護者の得意分野や経験を活かした企画づくりを行う。 ・ 役員だけに負担が集中しないよう、参加しやすいタスク分担を工夫する。 ・ 予算などのイベント運営のプロセスを見える化し、誰でも参加しやすい体制を整える。 ・ 子どもたちの安全確保や学びの質を重視した運営を行う。
	2 地域的な活動に協力する。	(1) かすみがうら市のイベントへの積極的な参加など、保護者と共に可能な企画運営を遂行する。	A	B	
	3 対外的な諸活動を滞りなく行う。	(1) 式典のメッセージカードの発送、お礼状の発送、年賀状等の準備を早めに滞りなく行う。	B		

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健厚生部	1 基本的な生活習慣の確立を基礎とし、自己の健康に目を向け、健全な心身の発達を目指す。	(1)委員会を活用した、心身ともに逞しい身体づくりを推進する。 (2)遅刻カードにて生徒の心身状況の確認を行い教員間で共有する。 (3)AED講習、性教育講話等を実施し、生徒の事故防止に努め、また人格の完成豊かな人間形成を育成する。	A		1 今年度も教員向けAED講習、生徒向け性教育講話、普通救命講習会を実施し、とても充実した研修だった。しかし、委員会を活用した運用が中途半端になってしまい今後の課題である。
	2 快適で安全な環境づくりに努める。	(1)教室・職員室の環境の整備をする。 (2)環境美化意識の育成を図る。清掃活動や、清掃用具等の整備などを通じて、環境美化を図るとともに、物を大切にできる人間性を育む。 (3)委員会を運用する。主体的に活動できる人材育成を目指す。	B	B	2 学校の環境整備という観点で、今年度新たな取り組みとして職員室・教員が使用する環境を整備することができた。しかし、まだまだ改善する箇所が多数見られるので、安心・安全な環境整備を行うにあたっては今後の課題である。
	3 教育相談の充実。	(1)保健厚生部長、養護教諭、学年主任・副主任、担任との連携を強化し、生徒に関する情報を共有化することにより、素早くきめ細かい教育相談を行っていく。学年毎に教員を配置し連携を取れるシステムの構築。 (2)『教育相談だより』を発行する。人格の成長への援助を図る。	B		3 計画的にきめ細かくスクールカウンセラーと連携を取って教育相談を実施。担当教員による研修、外部講師を招いての研修を2回実施。次年度も継続したい。『教育相談だより』を毎月発行できなかったことが課題である。

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
入試広報部	1 入学者 160 名	(1) 推薦・単願受験者の増加 (2) 個別相談、中学校・塾訪問の充実	A	A	推薦、単願受験者への支援を検討する。 学習塾との情報交換を強化する。
	2 受験者数 750 名	(1) 説明会の充実 (2) SNSを活用した情報発信 (3) ニュースレターの作成	B		ニュースレターやSNSを効果的に活用し、説明会の参加者数増に繋げる。
	3 説明会・入試業務の効率化	(1) 説明会の運営方法を工夫する (2) 入試業務のみなおし、デジタル化への移行	A		生徒による説明を行うなど実際の学校生活がイメージできるように工夫する。 効率よく、正確に入試業務を遂行する。

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
第1学年部	1 基本的な生活習慣の確立	(1) 定期的に生徒面談を実施し、生徒一人ひとりの学習状況や生活状況を把握する。 (2) 家庭との連絡を密にし、家庭での生活状況を把握することで、生徒の心身の成長を促す。	A	A	(1) 医療機関や第三者機関との連携等 予防的支援の充実化を図り、保護者との協力体制を強化する。 (2) 各家庭の連絡可能な時間帯に対応できる連絡手段の確立（保護者向け連絡ツール等）。
	2 自己を知り、他者との関わりを深める力の育成	(1) 道徳やソーシャルスキルトレーニングを通して、コミュニケーション能力や社会生活を営む能力を育成する。 (2) 行事への積極参加を促し、他者との交流を通じ自己肯定感を高める。	A		(1) 道徳やソーシャルスキルトレーニングでの学びを実践する機会の充実化。また、PDCAサイクルを重視し、体系化を図る。
	3 多くの活動に参加し、進路について考える力の育成	(1) 各種検定や課外授業などに積極的な参加を促し、自ら学ぶ姿勢を育成する。 (2) 校内外の多様な活動への参加を通じて多くの職業や学問分野に触れることで将来の選択肢を拡大する。	A		(1) 合格率の向上。合格へのプロセスを計画し、実行する力の育成。

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第2学年部	1 基本的な生活習慣の定着と規範意識のさらなる向上	授業遅刻に対する指導を強化する。身だしなみの指導を、朝のSHRや授業開始時に服装をチェックし、粘り強く指導していく。合わせて、上級生としての振る舞いについても指導していく。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業遅刻が一部の授業で見られる。継続して時間を守る指導をしていく。 ・身だしなみも概ね良好ではあるが、改善の余地はある。卒業を見据え、大人としての振る舞いと合わせて指導していく必要がある。
	2 進路意識の向上と、進路目標の確立	LHRを通して進路指導をするとともに、将来、就きたい職業や学びたい事について考えさせ、現時点での進路目標を立てさせる。	A		
	3 入試に対応できる学力の養成	進路目標に合わせた、授業を展開し、個に応じた指導をする。入学試験や就職試験の問題に触れさせることで、次年度の受験勉強につながるよう、学習意欲を向上させる。また、各種検定への挑戦を促し、学習への動機づけにする。	B		

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第3学年部	1 進路実現 ～目指せ！進路達成100%	(1) 面談を繰り返し実施し、生徒理解を図り、保護者とも連携をとり、希望の進路やその入試情報を把握、対策をとる。 (2) 進路ガイダンス（6月）・OCに積極的に参加し、進路を早めに意識付けさせる。	B	B	・1年生のうちから、進路の行事を積極的に受けさせ、面談も重視しながら、進路の意識付けをさせる。
	2 基本的な生活習慣の確立と行事の積極的参加 ～欠席・遅刻併せて3日以内/月	(1) 面談を通し、生活改善を図る。 (2) 挨拶・返事の指導の重視 (3) 部活動、学校行事への積極的参加を促進し、最上級生として、自覚を持たせ、学校生活の中で中心的な役割を果たす。	C		・手帳を利用しながら、保護者と連携し、生活習慣を整える。 ・目的意識を持たせながら、欠席を減らす。
	3 学習習慣の定着 ～一つひとつの授業を無駄にしない。	(1) 日々の学習の大切さを自覚させ、普段の授業にしっかりと取り組む。 (2) スコラノート記入を心がけ、前日の反省、その日の目標を作り、学習習慣を改善 (3) 検定受験を推奨	B		・手帳を利用しながら、学習習慣を改善する。 ・進路意識を持たせ、学習に繋げる。

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
国語科	1 進路実現のための実力養成 ・語彙力 ・評論読解力・小説読解力 ・古文読解力・漢文読解力	(1) 特別進学コース・医療・看護進学コースを対象に授業内に入試対策として漢字・古語・語彙に関する小テストを実施する。 (2) 学期毎に、学習単元を評論と小説を交互に一つずつ扱う。特別進学コースでは入試問題演習を行う。 (3) 古文漢文は、概要を理解できるための基礎的事項習得を徹底する。	B	特別進学コースに向け、入試問題演習を行った。一年生の特別進学コースに向けて、実施が出来なかったことは、次年度の課題である。 学年全体を通し、小テストや基礎学習は豊富に実施することが出来た。	
	2 社会生活を営むための基礎力養成 ・常用漢字を基本とする語彙力 ・一般教養としての国語基礎 ・表現力	(1) 進学コースを対象に授業内に常用漢字に関する小テストを実施する。 (2) 漢字検定や日本語検定の受検を奨励する。 (3) 作品創作や発表形式で「書く」・「話す」能力を養成する。		B	検定試験において、日本語検定の実施が出来なかったため、次年度はより積極的に声掛けを行う必要がある。
	3 自ら学ぶ主体性の養成 ・チャレンジ精神 ・発言、発信する力 ・知的好奇心	(1) ICTを活用し、生徒全員の意見を取り入れる創意工夫をする。 (2) グループワーク、討論による話し合いを取り入れた授業形態の導入。 (3) 新聞、動画等視聴覚教材を活用し、興味、関心を引き出す。		B	ICTは積極的に活用できたが、発言・発信の場数が少なかった。アクティブラーニングの機会を積極的に設定することを科内で共有していく。

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
地歴公民科	1 ICTを活用した効果的な授業づくり	(1) 写真や地図の拡大・縮小、画面への書き込み、映像視聴などを通じて、理解を深める。 (2) タブレットを活用した協働学習に積極的に取り組み、思考力・判断力・表現力を育成する。	B	<p>1 ICTを活用した効果的な授業づくり ICT機器を活用した授業実践は進んでいるが、使用が提示・説明中心に偏りがちである。今後は、タブレットを活用した協働学習や思考の可視化をより意識し、生徒が主体的に考え、共有できる活動を授業内に計画的に取り入れていく必要がある。</p> <p>2 進路目標に応じた的確な受験指導 進路に応じた指導を行っているものの、授業と受験対策の結びつきが十分とは言えない。今後は、日常の授業の中で社会的事象を扱い、思考力・表現力を育成することで、筆記試験だけでなく面接や小論文にも対応できる力を継続的に養成していくことが課題である。</p> <p>3 教員としての指導力の継続的な向上 共通テストや入試問題の分析を授業に反映しているが、生徒の主体性をより引き出す工夫が求められる。他教員の授業や実践事例を積極的に参考にしながら、自身の授業を振り返り、改善を重ねていく姿勢を今後も継続していく必要がある。</p>
	2 進路目標に応じた的確な受験指導	(1) 身近な社会的事象を題材に、原因と解決策を分析し、筆記試験だけでなく面接・小論文試験にも対応できる力を養う。 (2) 演習授業・課外授業・個別指導などを通して、生徒の進路に応じた学力を育成する。	A	
	3 教員としての指導力の継続的な向上	(1) 大学入学共通テストの過去問題から求められる力を分析し、授業に反映する。 (2) 生徒が主体的に学べる授業づくりを常に意識し、他者の授業を参考にして自らの授業を改善する。	B	

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
数学科	1 基礎学力の定着	(1) 習熟度別授業や個に応じた指導を行う。教科書の基礎的な部分の理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。必要に応じて、放課後や昼休みなどを活用して個別指導を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習サービス等を利用して、家庭学習の習慣化を図る。 ・グループワークの機会を増やし、主体的に取り組む態度を育成する。 ・授業内でデジタル機器をさらに活用し、グラフや図形などを視覚的に理解しやすくする。また、授業支援ツールを活用し、宿題やノート提出などの管理、効率化を図る。
	2 継続的な学習習慣の育成	(1) 授業ノートや演習ノートの点検を適宜行う。また、定期的に宿題を課し家庭学習の習慣化を図るとともに、小テストを実施し、学習への意欲を喚起させる。	B		
	3 進路目標に応じた受験指導	(1) 進路目標別に授業を実施し、大学入試、専門学校入試、公務員試験、就職試験など、それぞれに対応する演習を行う。 (2) 演習授業や放課後の個別指導などを利用して、生徒の進路目標に応じた数学の学力を育成する。	B		

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
理科	1 学習意欲を高める。	(1) 知的好奇心や探求心を持たせるため、目的意識を持って観察・実験を行う。 (2) 教科書、教科書傍用問題集を主に使い、予習復習がしやすいようにする。 (3) 動画を用いて視覚にうったえた授業を展開する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 動画や問題集の活用があったが、生徒の自主的な活動につなげることができなかったため、次年度は理解を深めるとともに学習意欲の向上に努める。 実験は生徒自身が目的を理解し、見通しを持って活動することができた。
	2 思考力・表現力を高める。	(1) 人前で発表するのが苦手な生徒が多いので、ロイロノートを使い意見の共有を行う。 (2) 演示などの実験を通じ、レポート作成をさせる。他者の意見を聞いて新しい考えに気付いたり、自分の考えを再確認したりしながら、自分の意見を他者に分かりやすく伝えられるようにする。 (3) 発表など能動的な授業態度を評価していく。	A	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートを活用し、意見交換を行うことができた。次年度は、話し合い活動や発表の機会を増やし、自分の意見を自主的に発表できるようにする。

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
理科	1 学習意欲を高める。	(1) 知的好奇心や探求心を持たせるため、目的意識を持って観察・実験を行う。 (2) 教科書、教科書傍用問題集を主に使い、予習復習がしやすいようにする。 (3) 動画を用いて視覚にうったえた授業を展開する。	B		<ul style="list-style-type: none"> ・動画や問題集の活用があったが、生徒の自主的な活動につなげることができなかったため、次年度は理解を深めるとともに学習意欲の向上に努める。 ・実験は生徒自身が目的を理解し、見通しを持って活動することができた。 ・ロイロノートを活用し、意見交換を行うことができた。次年度は、話し合い活動や発表の機会を増やし、自分の意見を自主的に発表できるようにする。
	2 思考力・表現力を高める。	(1) 人前で発表するのが苦手な生徒が多いので、ロイロノートを使い意見の共有を行う。 (2) 演示などの実験を通じ、レポート作成をさせる。他者の意見を聞いて新しい考えに気付いたり、自分の考えを再確認したりしながら、自分の意見を他者に分かりやすく伝えられるようにする。 (3) 発表など能動的な授業態度を評価していく。			

	3 知識・理解の定着を図る。	(1) 定期考査対策として教科書傍用問題集や、スタディーサプリを活用し、知識・理解の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の振り返りや確認の時間を十分に確保することができなかつた。繰り返し確認する活動を取り入れ、理解状況に応じた指導を行う。 ・外部の活動に参加し、生徒の自信につなげることができた。多くの活動に参加するよう促す。
	4 進路希望に応じた指導をする。	(1) 課外を実施し、受験に向けた基礎から応用までの指導をする。 (2) 受験対策として、レポート制作を取り入れ、推薦・総合型入試対策を企画する。	A	

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健体育科	1 興味・関心を引き出せる指導の工夫	(1)生徒の実態に応じた簡易ゲームなどを取り入れ、生徒の競技への関心を高める。 (2) 毎授業後に自己評価をロイロノートに記入させ、授業のモチベーションを高める。	B	<p>生徒の適正に合わせた体育実技が展開できた。1年生は基礎を学び、2,3年生でゲームを増やすなど、段階的に活動できた。</p> <p>毎時間の自己評価を行うように指導するとともに、自己評価を次につなげられるような指導を行いたい。</p> <p>実技テストや筆記テストについては実態に応じて行うことができた。</p> <p>来年度はさらに進化させたい。</p> <p>保健の授業においては、生徒の実態に合わせて、工夫した授業が展開できた。</p> <p>さらにさまざまな生徒に対応するために、今年度以上にタブレットを使用し、グループでの学習を改善したい。</p>
	2 実技テスト・筆記テストの導入	(1)授業に合わせた実技テストを導入する。 (2)能力に応じてテストの内容を工夫する。 (3)実態に応じて筆記テストを実施する。	A	
	3 保健の授業に於いて生徒を積極的に授業に参加させる工夫	(1)グループ学習や、発問を工夫して、多くの生徒が参加できる授業を行う。 (2)タブレットを積極的に活用させる。	A	

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
英語科	1 基礎学力を重視した学習活動の展開	(1) 生徒の学習状況を理解し、生徒の状況に応じた授業を展開する。基礎的な英文法を反復し、発展できる土台を作る。 (2) 特別進学クラスでは、共通テストを意識し、リスニングと速読に重きを置く。進学クラスでは、生徒が主体的に取り組める活動を取り入れる。 (3) 映像授業宿題や課題を活用し、生徒の家庭学習習慣の確立と知識の定着を図る。	B	A-	(1) 基礎的な英文法の反復練習と、モールステップで確実に力をつけられるような手段を講じる。 (2) 特別進学クラスでは、演習の質を高め、解説時間の充実を図る。進学クラスでは、協働活動と基礎学力定着を両立させた授業設計を行う。 (3) 家庭学習の継続を支援する指導体制を整える。
	2 ICT（情報技術）を用いた授業の展開	(1) ICT（情報技術）利用が目的とならない利用方法を教科内で共有する。 (2) 他教科におけるICT（情報技術）の利用方法を参考とし、英語科における活用方法を検討する。	A		(1) 生徒の実態に即したICT活用方法をさらに検討し、授業改善につなげる。 (2) 効果的な活用事例を教科内で共有し、指導の質の向上を図る。
	3 学び続ける教員 ・民間の英語4技能検定の受験 ・問題研究 ・授業研究の実施	(1) 英検、TOEICなど、民間英語4技能検定を受験または過去問を解き、自分なりの教え方を確立する。 (2) 共通テスト筆記100点・リスニング100点を全教員が目指す。 (3) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業案を共有及び追試を行い、授業改善に努める。	A		(1)(2) 個々の教員が得た知見を組織的に蓄積し、教科全体の指導力の底上げと、一貫性のある指導体制の構築を目指す。 (3) 授業検討を深化させ、相互参観の機会を増やすことで、指導法の平準化と向上を図る。

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
芸術科 (音楽Ⅰ・ 美術Ⅰ・ 書道Ⅰ)	1 生徒一人ひとりの個性に応じた感性を引き出し、伸長する。	(1) 芸術的表現力(演奏・表現・書写)や技術の向上を図る。 (2) 作品鑑賞を通して、自己や他者の価値意識を育てる。 (3) ICT機器を積極的・効果的に活用し、「楽しく・わかりやすい授業」を実践する。 (4) 個々に懇切丁寧な指導・きめ細やかな指導する際に、指導者の経験値や考えを強調しすぎないように配慮する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に授業に取り組める環境整備を充実させる。また、他者の鑑賞眼(鑑賞感)の価値意識を高められるような、評価基準とはどうのものであるかを学習する機会を設ける必要がある。 ICT機器を検索作業に積極的に用いてしまう生徒は、自己の感性を積極的に肯定することにつながらなくなってしまう。「著作権の侵害」にならないような事前学習も必要である。 伝統芸能や工芸品を理解させつつ、現代との関連性を身近のものでとらえられるように更なる工夫をする必要がある。
	2 我が国の伝統芸能の一端を理解し、尊重する態度を養う。	(1) 古典芸術の作品に触れる機会を多くする。 (2) 伝統芸能(邦楽・雅楽、工芸、書道)の技法や歴史を理解する。 (3) 日本独自の芸術文化をアピールする材料を探り、ICT機器に保存した自己作品など利用しつつ、生徒自身が情報発信できるようにする。	B	

令和7年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
情報科	1 パソコン室のシステムの管理と安定的な運用。	主に、google アカウントの管理・作成，パソコンやプリンタの保守管理。	A	A	<p>大学入学共通テストを始め、情報Ⅰが受験科目となってきた。授業内容をいかに早く終了させ、大学受験に対応した内容を入れるかが課題である。</p> <p>Python を軸としたプログラミング指導をしているが、検定試験受験にもつなげていけるような雰囲気づくりも心がける。</p> <p>パソコン室環境については、Windows11 搭載のパソコンに更新したが、機器トラブルもなく、生徒たちは安心して使える環境を保ったので、次年度も機器管理業務を大事にする。</p>
	2 基本的な技術の習得と，プログラミング教育	タブレットではなく，パソコンを使うことを中心にする。また，プログラミングについての指導を増やし，Python 検定など外部の検定試験受験者増を目指す。	A		
	3 情報モラルの向上	SNS に関するトラブル指導，著作権など法律に関わる指導は高校卒業後にも関わっていくため，2年3年どちらでも繰り返して指導する。	A		